

みんなづくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

資料2

沖縄県立博物館での展示検証および評価報告書 (ボランティア活動と教育キットの運営開発)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 橋本, 知子, 安藤, 淳一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00002065

＜資料2＞国際交流基金日米センターの助成金により実施された
全米日系人博物館 日本巡回展「弁当からミックスプレートへ」
沖縄県立博物館での展示検証および評価報告書

2001年6月
展示学研究所 橋本知子・安藤淳一

本編は巡回展の検証・評価の要約である。

調査概要

- 1) 目的
2. 沖縄県立博物館での調査結果および提言
 - 1) 来館の動機・期待、満足度、理解度—インタビュー調査より—
 - 2) 展示構成、デザイン—行動調査より—
 - 3) 教育プログラム—アクティビティキット—キット利用状況調査より—
 - 4) 今後の巡回展に向けての改善提言
3. 国立民族学博物館において改善された点

1. 調査概要

1) 目的

本調査では、米国において企画・制作された展示が、文化・社会背景の異なる日本で開催されるにあたって、日本の来館者にどのように受け入れられ、理解され、あるいは誤解されるのか。あるいはどのような点に過不足を感じ、どのような印象をもって観覧を終えるのか等々を、来館者への直接的な調査によってデータを集めた。それらを分析し、議論の中から改善点を明らかにして、提言としてまとめた。

日本で「展示評価」、「来館者調査」といった言葉に接するようになったのは、ごく最近のことで、欧米での実践例をもとに試行錯誤を重ねているのが実情である。その日本の展示評価の黎明期に、調査・分析・提言から改善された展示の実践までが一体となった本調査が実現されたのは大きな意味を持つ。

沖縄県立博物館で実施した本調査による提言を、全米日系人博物館は真摯に受け止め、次の国立民族学博物館での開催までの僅か 4 ヶ月間に、成し得る範囲の改善点をすべて形にして示したその実行力には、驚かされると同時に頭の下がる思いである。これこそが本来の展示評価のあるべき姿である、という事実を見せつけられた。

次は、このアメリカ型エバリュエーションの姿を私たち日本の博物館関係者が真摯に受け止める番である。

(1) 調査の目的

- ・ 来館の動機・期待の検証—なぜ来たのか・何を見に来たのか—
- ・ 満足度の検証—どう感じたのか—
- ・ 理解度の検証—メッセージは伝わったか—
- ・ 展示構成・デザインの検証
- ・ アクティビティキットの検証

(2) 調査方法

来館の動機・期待の検証、満足度、理解度の検証には、「来館者インタビュー」「簡易版来館者インタビュー」「据え置きアンケート」を実施した。展示構成・デザインの検証には、「来館者行動調査」を、アクティビティキットには、「アクティビティキット利用状況調査」を実施した。

2. 沖縄県立博物館での調査結果および提言

1) 来館の動機・期待、満足度、理解度—インタビュー調査より—

あらかじめ沖縄県立博物館での「移民展」が開催されていることを知っていて来館したのは全体の 49%であった。親戚・知人に移民がいたり、移民についてのテレビ番組を見て興味をもった、小学校の総合的学習の一環として、大学の研究テーマでなど、何らかの期待を持って来館した人々である。

展示内容への満足度としては、概ね「よかった」「よくわかった」「感動した」「なつかしかった」「わかりやすかった」という肯定的な意見を得ることができた。反面、期待が高かったがゆえに、「ハワイ以外の移民の姿が見えない」（当展を日系人全体を紹介する展示と考えていた）「1世2世の苦労や大変さが感じられない」「現代のハワイ日系人の姿を知りたかった」「そもそも、なぜ移民したのかという背景がわからなかった」といった否定的な意見も聞かれた。

本調査では、内容の理解度を測るのに、「日系移民が他の国々からの移民とともに、各々の文化を融合させハワイという地で独自のローカル文化を形成していった」というメッセージを端的に示し得る「ミックスプレート」という言葉、展示を見た人がどの

ように理解したか質問した。

その結果はミックスプレートについて十分な理解が得られなかったようである。中には「文化の混ざりあった様子」「チャンプルー文化」といった一定の理解を示した人もあったが、その数はごくわずかであった。

「タイトル（ミックスプレート）の意味がわからなかった」「タイトルと内容のつながりがわからなかった」という意見をはじめ、それ以上に多かったのは「気づかなかった」「わからなかった」「ミックスプレートって何?」といった意見であった。

要因としては、後述の行動調査結果からもわかるとおり、主題となるミックスプレートを説明したパネルを大半の来館者が見落としていた点がある。ハワイでポピュラーな食事メニュー「ミックスプレート」も、沖縄で知られていなかったからとの考えられる。これについての提言は後述の4)にまとめた。

2) 展示構成、デザイン—行動調査より—

展示室内における行動調査では、以下のような特徴が見られた。

- ・他のモジュールに比較し、M-2の中に入る人が極端に少なかった。
- ・他のモジュールに比較し、M-3、M-4、M-5のモジュール内を反転する人が多かった。
- ・M-3の壁面に設置した「ミックスプレートの解説を含めた弁当箱」のパネルを見た人は全体の27%であった。
- ・各モジュールの入口に設置されたモジュール概要パネルは、M-3を除き60%以上の人が見ていなかった。この要因には以下が考えられる。
- ・M-2は、居間を模した展示空間となっていたが、靴を脱いで入るのかそのままでもいいのかが明記されていなかったため、躊躇した人が多かったのではないかと。
- ・M-3とM-5はモジュールの入口が右側にあり、その進入方向のまま中を見ると反時計回りになってしまう。また、その間にはさまれたM-5も同様の動きになりがちである。
- ・M-2壁面の弁当箱パネルは、あいさつパネル→M-1→M-2と巡る動線からはずれた位置に設置されていた。
- ・モジュール概要を見てからモジュール内に入るという仕組みを、来館者に意識付けすべき展示の前半M-4、M-5にモジュール概要パネルが設置されていないため、その意識付けが不十分で全体としてモジュール概要パネルが見られていなかったのではないかと。
- ・M-3のモジュール概要パネルにはスポットライトがあてられていたが、それ以外

にはなされていなかったことが、モジュール概要パネルの認知度を低下させていたのではないか。

この結果から、展示室内全体の動線を反時計回りとし、各モジュールの出入口のパターンは一方向に統一するのが望ましいと後述の4)で提言した。

3) 教育プログラム - アクティビティキットーキット利用状況調査よりー

沖縄では6種類の体験型キットが用意された。会期26日間に延べ110回利用されており、平均4.2回/1日と利用率はきわめて高かった。また体験者の88%から「楽しんだ」と答え、満足度も高かったといえる。

日々来館者と接したボランティアの方々からは、これらのアクティビティ・キットをより活かすための改善点など多くの意見が寄せられた。いずれも大変前向きで具体的な提案であり、今回の調査においても重要な部分を占めている。

具体的な内容については、後述の4)改善提言の中に記す。

4) 今後の巡回展に向けての改善提言

・そもそも日系移民って何?という疑問に対して

なぜ移民しなければならなかったのか、ハワイ以外にどんなところへ行ったのか、何人くらい行ったのか等々の“日系移民政策全体の背景情報”について概要をまとめたパネル等を設置する。

・“ミックスプレート”がどういうものかわからないという意見を受けて

“ミックスプレート”とはどういうものなのかを示す写真や食品サンプルなどを設置する。またそれが昔のことではなく、現在のハワイでも根付いていることなのだということが一目でわかる展示が必要。

・タイトルと内容のつながりが感じられなかったという意見を受けて

“ミックスプレート”ということばで示されるハワイの多民族共存の姿を、日系移民だけではなく他民族側からも示す解説パネル等が必要。またこれは昔のことではなく、いまでもミックスプレートなのだと示す解説パネル等が必要。

・M-1・M-2がいつの時代のものなのかかわからないという意見を受けて

復元時期とオーナーのプロフィールなどがわかるタイトルパネル等を用意する。

- ・動線がわからないという意見を受けて
モジュールに観覧順序を示すサインを設ける。
- ・選挙のグッズなど日本人になじみがないものの説明が足りないという意見を受けて
「アリヨシ氏の選挙グッズ」「家を背負った日系女性のオブジェ」など現在の日本ではイメージしにくい話題について、もう少し詳しい説明パネル等を設ける。
- ・日本語で読める文献がほしいという意見を受けて
M-2 のソファ近辺や展示会場の適当な場所に、日本語で読める書籍やハワイについてのインフォメーションコーナーを設ける。
- ・映像が長くてお年寄りにはつらいという意見を受けて
映像の上映時間を明示する。またモジュール内に椅子を用意することも検討できるが、狭いモジュール内に椅子を設けることで観覧の障害となるおそれもあるので、会場近辺に別途同じ映像ソフトを観覧できる場所を設けることが望ましい。
- ・同年代の子どもたちの姿が知りたいという意見を受けて
現在の4世・5世の生活ぶりなどがわかるパネルや映像ソフトを用意する。
- ・M-2 モジュールへの出入りに対して
本来靴を脱いで入る家屋であることをサインや解説パネル等で明示する。また「ここでは靴を脱いで入るのか、それとも履いたままで入るのか、どちらでしょう？」などのクイズ形式にして来館者の興味を喚起するなどの方策も検討できる。
- ・モジュールのパターンに対して
来館者が自然に時計回りできるパターンにモジュールを統一すべき。
- ・モジュール内を反転しにくく、かつモジュール概要パネルの認知度を上げるために
モジュールパターンは統一。会場内動線は反時計回り。モジュール内は時計回りで統一。
- ・モジュール概要を目立たせるために
モジュール概要に対してスポットライト照明を行う。

- ・ M-2 の弁当箱解説パネルの認知度をあげるために

“ミックスプレート”というテーマを伝える重要なパネルなので、M-1 にからめて展示する。あるいは、さとうきび畑での労働などテーマの関連が深い M-5 にからめて展示するなど、設置場所を再検討。

- ・ 各モジュールごとの展示の視点が書かれた解説シートの認知度をあげるために

現在比較的低めに設置されているので、もっと高い（目立つ）位置に移動。あるいはスポットライト照明を行う。また小冊子やもって帰れる解説シートなどを用意することで対応するという手法も考えられる。

- ・ M-2 の居間の中に、手を触れていいものといけなないものが混在していることによる不明確さをなくすために

「手をふれてもいい」「手をふれてはいけない」を明示する。または、手を触れてはいけない展示物をレプリカにして、すべてに触れていいようにする。

- ・ 体験コーナーで何をしているのかわからないという意見を受けて

「体験コーナー」というコーナーサインを設ける。またキットの使い方を示した解説パネル等を用意する。

- ・ “さとうきび畑のファッション” はみんな写真をとりたがるという意見を受けて

鏡を用意する。また、背景に実物大のさとうきび畑のパネルなどを用意して、そこで記念写真を撮れるようにする。

- ・ ことばあそびのカードについて

ことばだけのシートを用意し、意味は来館者が記入して持ち帰れるようにする。あるいは、めくったときに意味が書いてあるような紙芝居形式にするなどの工夫があり得る。

- ・ ミックスプレートをわかりやすく示すために

ミックスプレートの具をそれぞれイラストカードや食品サンプルで用意し、自分なりのミックスプレートをつくることのできるキットを用意する。またいくつかの代表的なミックスプレートのレシピを書いたシートを用意し、持ち帰れるようにする。

3. 国立民族学博物館において改善された点

(1)日系移民に関する基本的情報の不足について

『日系アメリカ人の歴史』（発行：全米日系人博物館）という小冊子が、会場内 2 ヶ所に設置され自由に読めるようになっている。

(2)食のメニューとしてのミックス・プレートについての説明不足について

- ・国立民族学博物館のレストランのメニューに追加され、実際に食べられるようになっている。
- ・巡回展のリーフレットにイメージ写真が掲載された。

(3)展覧会のタイトルと展示内容の関連性の不足について

- ・アクティビティキットの中に「弁当からミックスプレートへ」という題の紙芝居が追加され、展覧会のタイトルの意味を説明できるようになっている。
- ・アクティビティキットの中に、果物を入れた弁当箱が数個用意され友人同士で中身の取り替えごっこができるようにし、「おかずを分けあう」ことを体験できるようになっている。

(4)M-1(ガレージ)、M-2(居間)の時代設定がわからないという点について

時代設定は書かれていないが、「ハワイ日系人家庭のガレージ」「ハワイ日系人家庭の居間」と標記されたパネルが設置された。

(5)動線の明示について

- ・モジュールごとに観覧の順序を示すナンバーと各々の年代が示されたパネルが設置された。
- ・巡回展のリーフレットに簡単な平面図が描かれ、観覧の順番がわかりやすく書かれた。

(6)日本語で読める文献が欲しいという要望について

国立民族学博物館正面入り口右手のイスのコーナーに、数冊の本が用意され自由に読むことができるようになっている。

(7)各モジュールの解説映像の時間が長く疲れる、またどのくらいの長さなのかがわからないという点について

- ・各々の解説映像に上映時間が明示された。
- ・解説映像のあるモジュールの中に、小さなイスが用意された。
- ・会場近くの地下休憩所に、解説映像をイスに座ってゆっくり見ることができる場所が用意された。

(8)同年代の子どもたちの姿が知りたい、今のハワイの日系移民について知りたいという点について

前記(7)の解説映像上映場所で、「ハワイの若者の視点」という映像があわせて上映されるようになった。

(9)来館者が自然な流れの中で、モジュールタイトル・モジュール概要を読み進みモジュール内も反時計回りでまわれるようにするための、モジュールのパターンと会場内動線について

- ・開催会場の関係もあり、会場内動線は反時計回りとなった。
- ・モジュール自体のパターンの変更はなされなかったが、モジュール概要パネルの位置を変えることによって、順番に読み進むことができるようになった。

(10)全体のテーマ理解の根底になる「弁当箱の解説パネル」を目立たせるという点について

M-3の壁面という、全体の中でも目立つ位置に設置場所が変更された。

(11)各モジュールごとの展示の視点が書かれた解説シートを、より活用してもらうようにするために

- ・前回に比較し、高い位置・目立つ場所に設置された。
- ・解説シートの目印であるまねき猫を大きく描いて「「ぼくをみつけて！」としたパネルが用意され、解説シートの存在がより強くアピールされるようになった。
- ・リーフレットや小冊子など持ち帰ることが出来る資料も新たに加えられた。

(12)M-2の居間の中に、手を触れていいものといけないものが混在しているという点について

「お手をふれないでください」「本はご自由にお読みください」という小さなプレートが貼られた。

(13)体験コーナーであることを明示するという点について

アクティビティキットの内容が明記されたパネルが、各々の場所に設置された。

(14)「さとうきび畑のファッション」を着た自分がみたい、写真が撮りたいという点について

・「さとうきび畑のファッション」の体験コーナーに姿見が設置された。

(15)ことばあそびカードを紙芝居形式にする、意味を書いて持ち帰れるようなものを用意するという点について

・ことばあそびカード用のスタンドが用意され、そこにカードを掛けて紙芝居形式で出来るようになった。

・子どもたちが記入し持ち帰れるようになった「ハワイのいろいろな言葉調べ」というシートが用意された。

以上が、国立民族学博物館での巡回展にあたって改善された内容である。この他、「かみしばい」や「パズル」など新しいアクティビティキットが設けられたり「さとうきび」の実物が用意されていたりと来館者に理解を深めてもらうための工夫が随所にみられ、“なお一層意義深い催し”となったことは間違いないといえるだろう。